

平成29年度 施策評価シート

[施策No.] [施策名]		[68] 特別支援教育の推進			主管	教育委員会
						学務課
施策の概要	長期総合計画体系	[将来像] Ⅲ 暮らしやすいまち				
		[基本目標] Ⅲ-2. 次の世代の育成				
		[小柱] (3) 社会を生き抜く力を育てる教育の推進				
	10年後のめざす姿	● 特別な教育的配慮を必要とする児童・生徒に、適切な学習機会と教育を提供する環境が整っています。				
	主な取り組み	①	特別支援教育の推進	⑥		
		②		⑦		
③			⑧			
④			⑨			
⑤			⑩			
* 施策を構成する行政計画事業の進捗は、裏面「行政計画事業」を参照。						
施策の執行状況	施策の指標	指標名	計画策定時 (26年度末)	目標 (36年度末)	27年度	28年度
		副籍事業実施率	小学校 42.9% 中学校 16.7%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 74.3% 中学校 43.5%	小学校 77.8% 中学校 75.0%
評価結果	A	(施策の指標の実績、構成する行政計画事業の進捗・成果・課題等を踏まえて評価)				
		<p>小学校情緒障害等通級指導学級から特別支援教室への移行に向け、27・28年度は通級相談員(臨床心理士)を増員するなど、適切な教育環境の整備を進めてきた。</p> <p>また、発達障害のある児童への支援を拡大することに伴い、各校保護者からの相談件数が増大している中、随時就学相談を設け、就学相談委員会を計画事業量以上に実施するなど、きめ細やかな対応を行ってきた。就学支援シートの活用についても、行政計画事業量の目標は達成していないものの、シートの提出に不安を持つ保護者への丁寧な説明を心がけ、理解を促すことにより、28年度の活用割合は前年度より上昇している。</p> <p>施策の指標である副籍事業実施率は順調に推移しており、特別な教育的配慮を必要とする児童・生徒の適切な学習機会と教育を提供する環境整備が着実に進んでいる。</p>				
	A 順調である B 一部課題がある C 課題がある					
	学識経験者からの意見	<p>本施策にあつては、ここ数年、インクルーシブ教育の推進など、小中学校の教育事情が変化しており、それに対応した必要な環境整備が区としてなされている。日々の子供への指導は、教員個々の指導力量や各校の努力によって必要な成果がみられるといえる。支援員の配置等も現状を踏まえた増加がなされている。10年後には、「特別な支援」によつた教育ではなく、子供たち・人間すべてが個々が求める学びを十分に享受する教育の在り方が到来すると考える。</p> <p>いわゆる「特別な支援」として本施策を維持する発想ではなく、「通常の支援」としてユニバーサルな体制と支援にシフトチェンジすることを目指してほしい。その実現に向け、児童生徒の実態把握、人権教育の視点に立った学びの保障など、教育観そのものを問い直すことを求めたい。制度・態勢的な側面(ハード)の動きに応じることから、子供・保護者・教員・行政担当者などの関係者すべての能動的な支援感覚(ソフト)に根付いた改善プランを構想してほしい。</p>				

施策を構成する行政計画事業の進捗								
	(事業No.) 行政計画事業名	所管課	現況 (26年度末)	計画事業量	年度別 事業計画	27年度	28年度	29年度 (見込み)
1	(221)特別支援教育の 推進	学務課	特別支援学級運営 推進	推進	目標	推進	推進	推進
					実績	推進	推進	推進
		学務課	就学相談委員会等 73回	年73回	目標	73回	73回	73回
					実績	76回	76回	73回
		学務課	就学支援シート活用割合 82%	100%	目標	95%	98%	100%
					実績	75%	81.8%	100%
		学務課	副籍事業実施割合 30.8%	85%	目標	65%	75%	85%
					実績	62.1%	76.8%	85%
		教育支援館	支援を必要とする児童・生徒に 配慮した支援員の配置 推進	推進	目標	推進	推進	推進
					実績	推進	推進	推進
2					目標			
					実績			
					目標			
					実績			
					目標			
					実績			
3					目標			
					実績			
					目標			
					実績			
					目標			
					実績			
4					目標			
					実績			
					目標			
					実績			
					目標			
					実績			